

海上自衛隊プラモデル観艦式

Model Graphix ARCHIVES

モデルグラフィックス編
大日本絵画

あごも、もがみ、が
いずも、ひゅぎ、た
あさひ、しもら、さめ
あきづき、むら、しゅつ
あかみな、あま、つかぜ
はやぶさ、お、ほか
おやしお、
主要艦作例掲載!



Japan Maritime Self-Defense Force Plastic Model Fleet Review

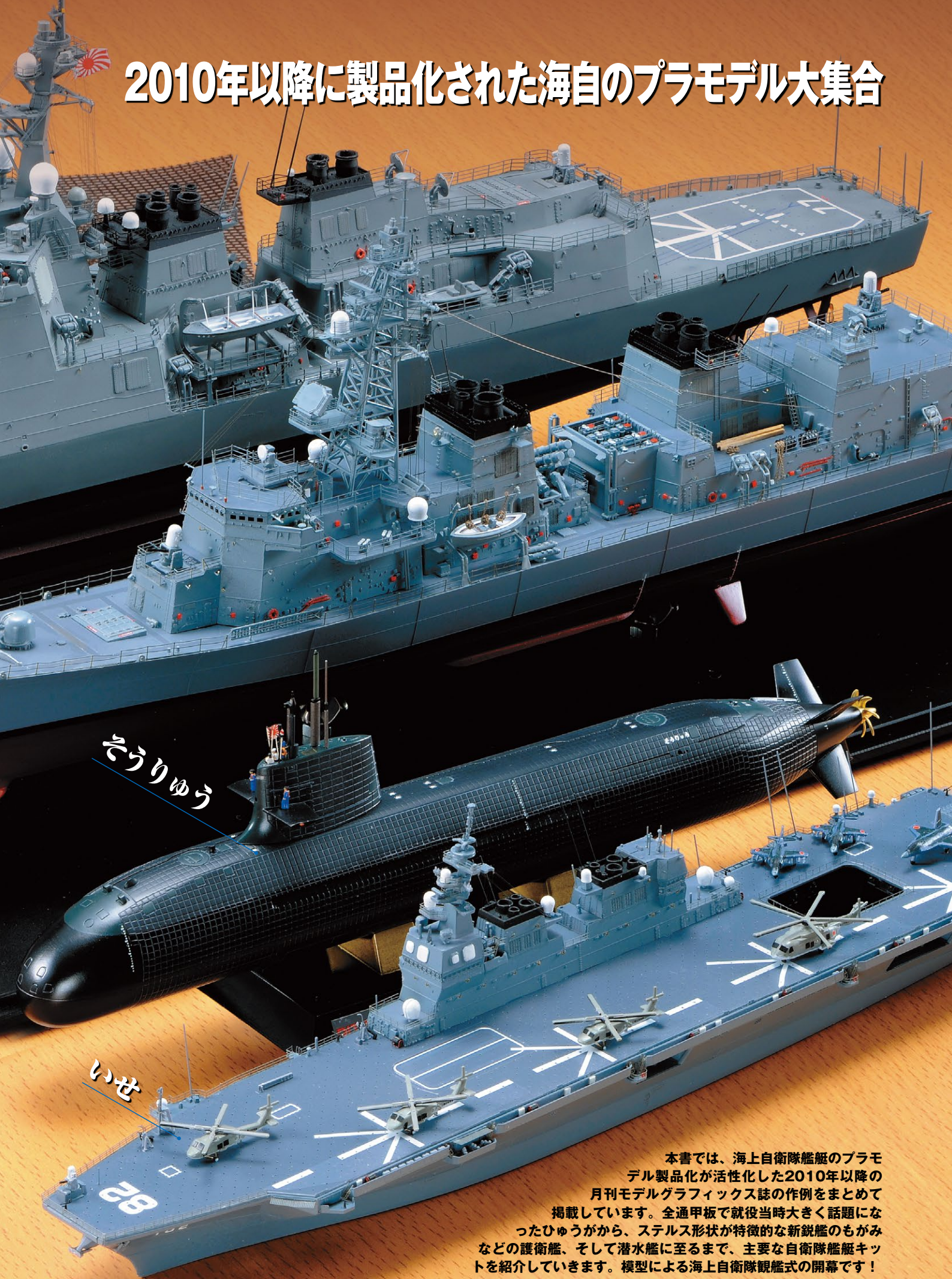
海上自衛隊 プラモデル観艦式

Model Graphix
ARCHIVES

モデルグラフィックス編
大日本絵画



2010年以降に製品化された海自のプラモデル大集合



そうりゅう

いせ

本書では、海上自衛隊艦艇のプラモデル製品化が活性化した2010年以降の月刊モデルグラフィックス誌の作例をまとめて掲載しています。全通甲板で就役当時大きく話題になったひゅうがから、ステルス形状が特徴的な新鋭艦のものがみなどの護衛艦、そして潜水艦に至るまで、主要な自衛隊艦艇キットを紹介していきます。模型による海上自衛隊観艦式の開幕です！



あたご

むらさめ

Contents;

ひゅうが (ビットロード 1/700) / Takumi 明春 4	いすず (ビットロード 1/700) / 中村勝弘 52	あさひ (ビットロード 1/700) / 鈴木幹昌 89
はやぶさ、うみたか (青島文化教材社 1/700) / 米波保之 8	初代あきづき (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 54	あさひ (青島文化教材社 1/700) / 野々上秀樹 92
しもきた (タミヤ 1/700) / Takumi 明春 14	初代むらさめ (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 59	あまつがぜ就役時 (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 94
あたご (ビットロード 1/350) / 川合勇一 16	初代あきづき (ビットロード 1/350) / 野々上秀樹 60	まや (ビットロード 1/700) / 川合勇一 98
むらさめ (ビットロード 1/350) / 野々上秀樹 20	はるな (ビットロード 1/700) / Takumi 明春 56	もがみ (ビットロード 1/700) / 川合勇一 100
おやしお、そうりゅう (ビットロード 1/700) / 日下善平 28	あきづき、てるづき (ビットロード 1/700) / 中村勝弘 59	もがみ (タミヤ 1/700) / 川合勇一 104
いせ 就航時 (青島文化教材社 1/700) / 野々上秀樹 32	ひゅうが 離島防衛作戦 (青島文化教材社 1/700) / Takumi 明春 64	むらさめ (サルボモデル 1/700) / SORYU 108
たかなみ (ビットロード 1/350) / Takumi 明春 36	あたご (ハセガワ 1/450) / けんたろう 70	砕氷船 しらせ (シールズモデル 1/700) / Takumi 明春 114
すがしま (ビットロード 1/350) / 日下善平 42	いずも (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 76	砕氷船 宗谷 (ポントスモデル 1/250) / Takumi 明春 118
ゆうしお (ビットロード 1/350) / 日下善平 44	ましゅう (青島文化教材社 1/700) / 野々上秀樹 80	巡視船 はかた、ちくぜん (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 124
くにさき (タミヤ 1/700改造) / 中村勝弘 46	ひゅうが (ハセガワ 1/450) / 野々上秀樹 84	巡視船 いず (ビットロード 1/700) / 野々上秀樹 126

JAPAN MARITIME
SELF-DEFENSE FORCE

DDH-181

ひゅうが

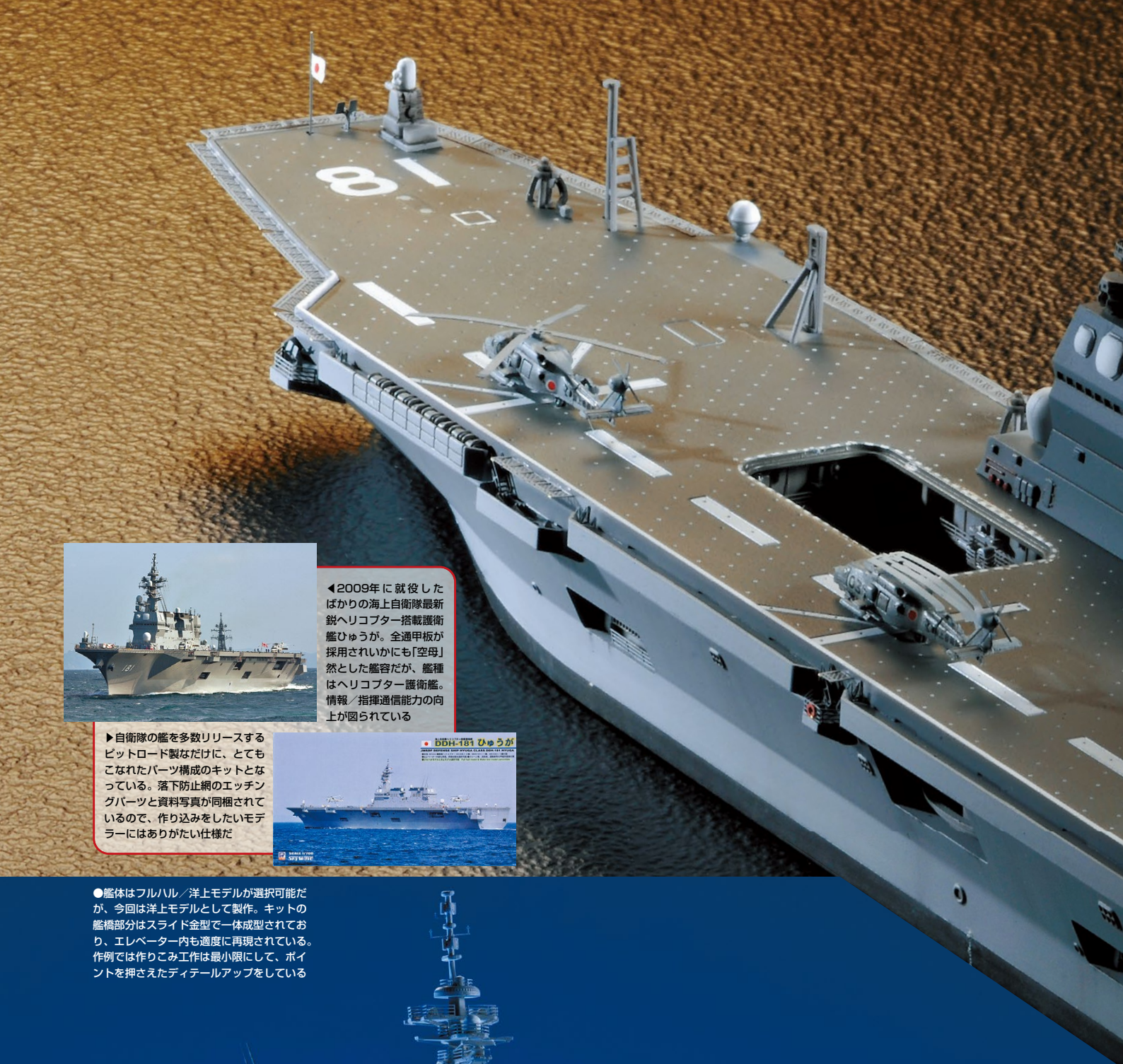
ピットロード1/700

高度な電子システムを搭載した
日本近海防衛の要を再現

海上自衛隊史上最大の護衛艦ひゅうがは、基準排水量1万3500トン、はるな型の後継として全通甲板を備えるヘリコプター搭載艦として就役しました。そのひゅうががピットロードより1/700でプラモデル化！
新鋭艦らしいステルス性を考慮した艦体／艦橋などの複雑な形状がしっかりと再現されたキットとなっていますので、作例を紹介していきましょう。

海上自衛隊 ヘリコプター護衛艦 ひゅうが
ピットロード 1/700
インジェクションプラスチックキット
税込6050円
製作・文 Takumi 明春

Japan Maritime Self-Defense Force
Helicopter Destroyer HYUGA
PIT-ROAD 1/700 Injection-plastic kit
Modeled and described by Akiharu TAKUMI.



◀2009年に就役したばかりの海上自衛隊最新鋭ヘリコプター搭載護衛艦ひゅうが。全通甲板が採用されいかにも「空母」然とした艦容だが、艦種はヘリコプター護衛艦。情報／指揮通信能力の向上が図られている

▶自衛隊の艦を多数リリースするビットロード製なだけに、とてもこなれたパーツ構成のキットとなっている。落下防止網のエッチングパーツと資料写真が同梱されているので、作り込みをしたいモデラーにはありがたい仕様だ

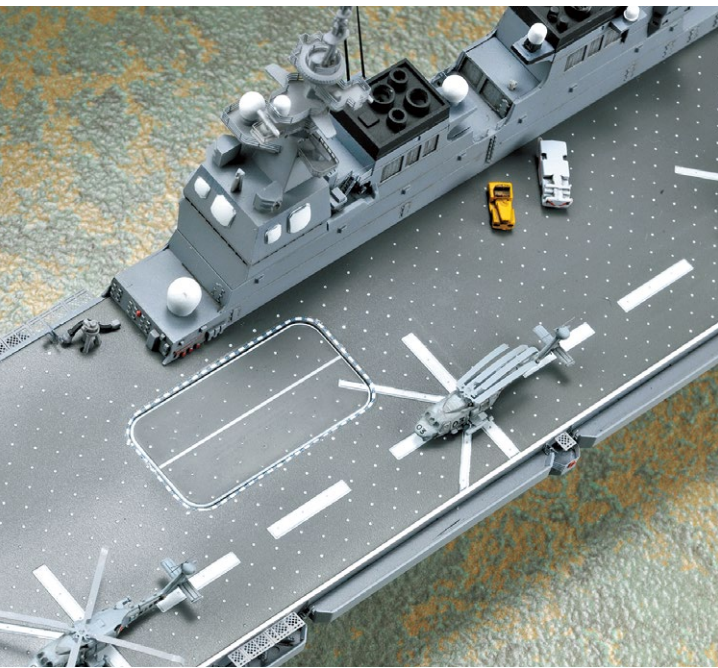
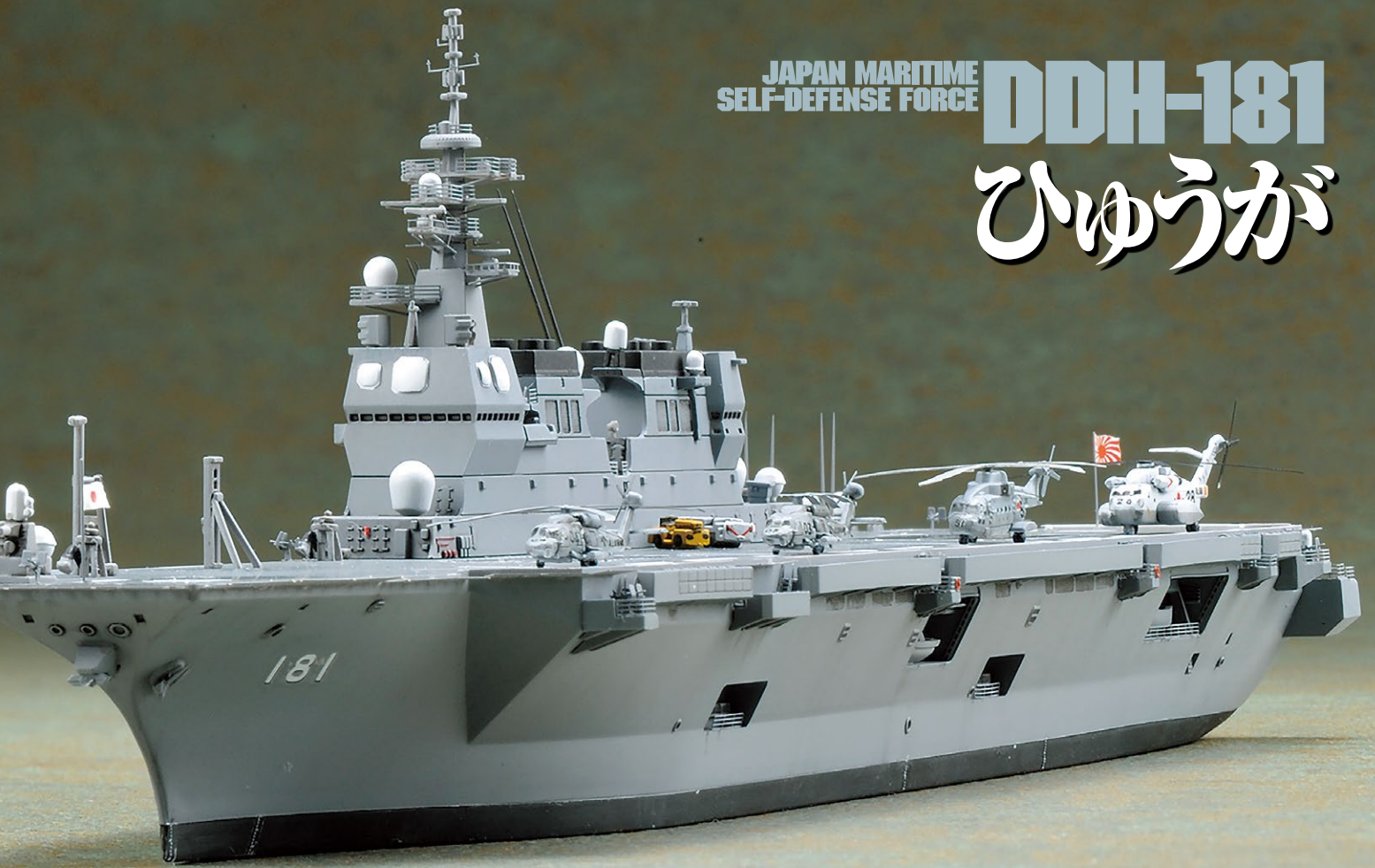


●艦体はフルハル／洋上モデルが選択可能だが、今回は洋上モデルとして製作。キットの艦橋部分はスライド金型で一体成型されており、エレベーター内も適度に再現されている。作例では作りこみ作業は最小限にして、ポイントを押さえたディテールアップをしている



JAPAN MARITIME
SELF-DEFENSE FORCE

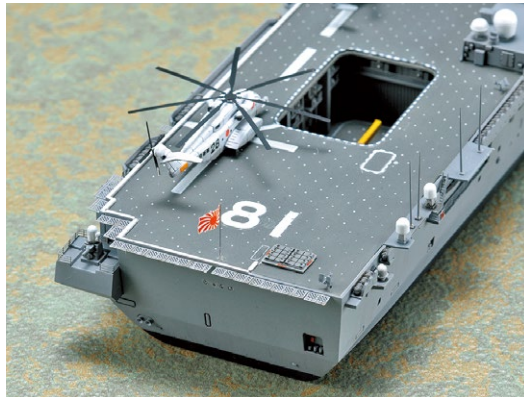
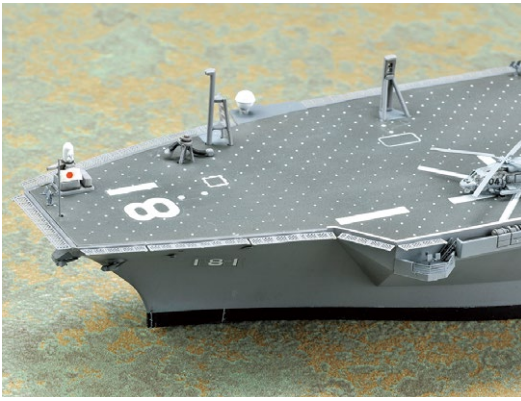
DDH-181 ひゅうが



◆艦体

艦体は先にエレベーターのところから製作。まず、エレベーターの床を塗装してからエレベーター側面を塗装します。側面はいい感じのモールドになっていますので、付属の資料写真を見て伸ばしランナーとエッチングパーツの手すりを使い少しディテールアップしてみました。かなり密度感があり、チラッと見えるだけで非常に有効といえます。エレベーターの床と側面を塗装したら艦体に組み込み、今度は艦底を接着。流し込み接着剤を流しながら慎重に貼っていくとピッタリ合いました。

次は、艦体に付いている傾斜階段を削除してから艦体側面の通路を貼り付けていきます。このときまだ装備品は接着しません。通路をすべて接着し終えたら水平をチェックしておきます。ブルワークは厚さが気になったので、内側から斜めに削って薄くシヤープに見せます。その後傾斜階段を取り



●キットにはSH-60K×3機、MH-53E×1機、MCH-101×1機、クレーン車、運搬車、消防車 各1台が付属する

●SH-60は同社から発売されているむらさめ型などに付属していたものから改修されていて、スライド金型の使用によりかなりこまやかなディテール再現がされている。正面にパーティングラインがあり乱暴に整形作業を行なうとガラス部分が割れてしまいがちなので注意したい。ナイフで切り込むか、エッチングソーで切り込むか、ドリルで削り込みを入れるか迷った結果、今回は0.4mm径のドリルでガラス部分も削り込んで製作している。ローターと機体は分けて塗装したほうがきれいに仕上げやすいだろう。ガラス部分にはクリアーのエポキシパテをつけるようにしてそれらしく再現している。ヘリのローターは、先端がたれるように曲げて接着するとリアルになる

●甲板のタイダウンホールは凹モールドで再現されているので、白をスミ入れて仕上げると実艦どおりにできる

●アンテナはフィンモールドの金属挽きパーツに置き換えた。換えるだけの簡単な工作で効果が高いポイントだ



付けますが、今回は市販の汎用エッチングパーツを使用しています。救命艇があるところは付属資料写真を参考に少しディテールを加えます。使ったのは伸ばしランナーと余ったエッチングパーツの手すりなどです。救命艇が載るとそれほど気にならなくなるのでほどほどで充分だと思います。

白いレーダーや機銃、救命具、アンテナ線はマスキングテープに貼り付けておき、個別に塗装してから最後に接着します。この方法だと非常に楽に塗り分けでき、結果きれいに仕上げる事ができます。

◆艦橋

艦橋は煙突上部(黒いところ)、マスト、艦橋基本構造物を3つに分けた状態で作業を進めていきます。艦橋構造物も同じように機銃、白いレーダー等は個別に塗装するとういでしょう。それ以外のところは塗装に影響ないので先に接着してしまいます。

マストは目立つのであるべくきちんと組みたい箇所。クリップにはさんで持ち手を作り、床板部分を薄く削ります。削ると接着面のところに隙間が空くので、プラ板を差し込んで隙間を埋めました。

エッチングパーツの手すりは塗装前に接着しました。また、アンテナを追加しておきます。煙突上部を黒く塗装し終えたら艦橋を組み立てていきます。垂直アンテナは、0.3mm径の真ちゅう線をモーターツールに取り付けて400番のサンドペーパーで先端を尖らせて自作したものを取り付けました。フィンモールドの市販パーツを使うのもよいでしょう。

◆塗装

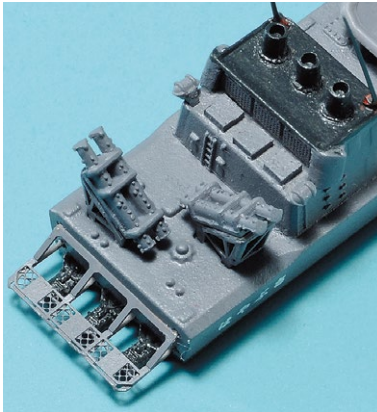
艦体 海自グレー(PC・1)、甲板 米國グレー2(PC・4)、構造物上面/海自グレー2(PC・2)、ヘリ機体上面/GS1クレオスMRカラーの325番、機体下部/316番を使用。甲板は米國グレー2を塗装後、ラインはマスキングして塗っています。タイダウンホールの白はタミヤのエナメル系塗料のフラットホワイトでスミ入れて再現しています。

はやぶさ

ディテールアップして製作



Japan Maritime Self-Defense Force
Guided-missile patrol boats HAYABUSA
AOSHIMA 1/700 Injection-plastic kit
Modeled and described by Yasuyuki YONEYAMA.



●船体の各面をシャープに仕上げることでよりステルス艦らしさを強調。煙突後部のガスタービン吸気口の下に3つ並んだハッチが金型の都合で省略されているのでプラ板で再現した。煙突上のホイップアンテナ(AE12,13)は、のりしろを切断して構造物上に接着。ミサイル発射筒の架台や推進器のガードはエッチングパーツの効果が絶大。手すりは好みであえて使用しなかったがキットには付属する。作業艇の船先は右舷に向くのが正しいので注意しよう

わずか8cmの手のひらサイズ 章駄天ミサイル艇「はやぶさ」

今回製作したのは02年にネームシッップの「はやぶさ」が竣工した海自の最新型ミサイル艇。前級の一号型はハイドロフォイル型式であったが、わずか50トンの船体は非常にデリケートで、気象状態によっては行動を制限されることから計画は3隻で打ち切りとなり、新たに新設計のミサイル艇開発が検討された。折しも能登半島沖で不審な小型船舶が出没するという憂慮すべき事件が勃発し、これらへの強力な抑止力としての期待も担うての登場となった。

ステルス性を重視した船体は軽合金製。ウォータージェット推進で速力44ノット。後甲板に90式SM連装発射筒2基、前甲板に76mm単装砲を有し、さらに対不審船用に

艦橋上に12・7mm単装機銃2基が装備されている。平成14・16年に同型艦6隻が竣工し3個ミサイル艇隊を組んで行動している。

◆それでは1/700の世界へ

キットには2艇分のパーツが同梱されているので2艇とも製作することに。同じように作るよりも指向を変えて製作したほうが皆さんの参考になるのではないと思ひ、うみたかは基本工作をしつかり行ないつつディテールアップはしないで製作している。もうひとつのはやぶさは、キットに付属しているエッチングパーツを使うなどディテールアップをして製作してみている。

微妙ではあるが船体舷側にヒケている部分が見られたので、少量のバテと紙ヤスリを使って埋めておくようにした。このとき底板(部品②)の接合線の処理もしておく

とよいだろう。

◆手を加えてみるのもまた一興

はやぶさのほうの船体には、多少アウトラインの修整も加えている。本艇の特徴である「二段のナックルライン」を再現してみた。上段のナックルは0・3mmのプラ棒を貼り付けたところにバテを盛って「く」の字状の断面に削り込んでいく。下段は同じくプラ棒を貼り付けてその下をV字状の断面に削って再現してみた。

キットの船体は艦尾のミサイル発射筒下の切り欠きの下がふくらんでいるが、ここはヤスリかけて舷側ラインとツライチに仕上げる。

艦首甲板の波切り板は高さが足りないのので0・25mmプラ板を貼り付けた。その際に錨鎖のモールドも削り取っておき、0・14

mmのプラ板で錨鎖導板を船体から少し浮かせて作って、エッチングパーツの鎖(フライングモールド製)を接着してみた。

艦橋の前面(部品19)はエッチが曖昧になっているので、紙ヤスリで慎重に削り、キレイな折れ角が現れるよう削り込んだ。消えた扉のモールドは市販のエッチングパーツで再現した。また、艦橋の側壁(部品8・9)は垂直に立っているが、正面から見たときに台形状の断面になるのが正しいので

船体側の接合面を少し斜めに削ってから接着する。これに合わせて羅針艦橋窓(部品11)も側面を少し削って窓のモールドを再生する必要がある。76mm砲のシールド(部品12)もエッチが甘いのでカッターを使いカンナがけで削って、ステルスシールドの直線的面構成を再現しておいた。

マスト(部品③)の主柱の断面は菱形で、

角が首尾線方向を向くのが正しいためモーターツールでそのように削り込んでみた。また、キットではマストの両脇にある12・7mm単装機銃が省略されているのでプラ材でそれらしく作って載せておいた。こうして手を入れてエッチングパーツを使用すると、わずか8cm弱ほどの小さなモデルでもなかなかの密度となる。

◆製作を終えて小型艦キットに思うこと

進化した1/700の世界。抜かりなく再現された手のひらサイズの小さなフネたちはハガキほどの小さなベースで、ちょっと風刺の利いたストーリーのダイオラマも展開できてしまう。サクッと組むだけでもよいし、手を加えれば応えてくれる、十分にミニチュアワールドを堪能できる刺激的アイテマだ。

1/700ちっちゃい艦船コレクションいろいろ



海上自衛隊ミサイル艇

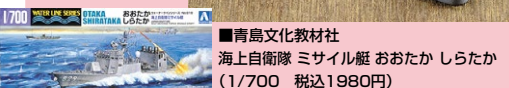
●青島文化教材社のはやぶさ/うみたかは「迷子の大型漁船」が、おおたか/うみたかには「怪しい小型船」のオマケが付属したバージョンをスポット生産。おおたか/うみたかにはエッチングパーツは付属せず、そのぶんリズナブルな価格となっている



PT-Boat

■青島文化教材社
PTボート PT109
(1/350 税込2200円)

●PT-109とPT-132の2種類がラインナップされているPTボート。PT-109には主役(?) 1/350のほか、オマケとして8パーツで構成された1/700スケールの同型艇が付属する

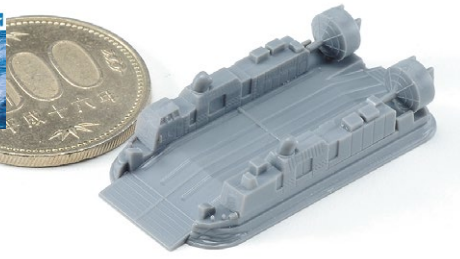


■青島文化教材社
海上自衛隊 ミサイル艇 おおたか/しらたか
(1/700 税込1980円)



海上自衛隊輸送艦

●おおすみといえは全長180mの巨大な輸送艦だが、ここで注目したいのはおまけとして付属している船舶のほう。タミヤのおおすみには同スケール(1/700)の「LCAC」(エアクッション型揚陸艇)が付属。右上の写真のようにハッチ(扉)を展開中と閉じた状態のふたつ入りとなっている。タミヤの同型艦キットであるしもきたには水中翼ミサイル艇(右下写真)も付属。写真はエッチングパーツなどでディテールアップして製作したもので、大きさは指先第一関節ほどだが見映えのする模型として作ることが出来る



■タミヤ
海上自衛隊輸送艦
LST-4001 おおすみ
(1/700 税込3080円)
海上自衛隊輸送艦
LST-4002 しもきた
(1/700 税込3520円)

様々な支援任務をこなす「緑の下の力持ち」

艦隊を語るうえで忘れてはいけないバイプレイヤー、「揚陸輸送艦」

海上自衛隊輸送艦おおすみ型 **しもきた**

🇯🇵 **LST-4002**

ニュースで繰り返し報道された災害派遣艦での入浴支援や洗濯支援ですが、それを行なったのがヘリ護衛艦ひゅうがや、このおおすみ型輸送艦しもきた。海上自衛隊の命名区分としては「輸送艦」となっていて、いまひとつ地味な印象をぬぐえないおおすみ型ですが、アメリカ式に言えば「ドック型揚陸艦」に相当します。艦番号に冠された「LST」は「Landing ship, tank」の略。90式戦車10輛または74式戦車12輛を輸送揚陸する能力を持ち、LCACも搭載／運用できる緑の下の力持ちなのです。



海上自衛隊 輸送艦 しもきた
タミヤ 1/700
インジェクションプラスチックキット
税込3520円
製作・文/Takumi 明春

Japan Maritime Self-Defense Force
Helicopter Destroyer SHIMOKITA
TAMIYA 1/700 Injection-plastic kit
Modeled and described by Akiharu TAKUMI.

TAMIYA 1/700
JMSDF LST-4002 "SHIMOKITA"





揚陸任務に特化された輸送部隊とその能力
文/岡部いさく (軍事評論家)

アメリカの第7艦隊に強襲揚陸艦エセックスがあれば、海上自衛隊には「おおすみ」型輸送艦あり。どちらも飛行甲板があつて一見空母風の外見で、艦の後部の内部は「ワエルドック」になつていて揚陸艦が出し入れできる。とはいえ艦の大きさはエセックスの基準排水量約2万8000トンに比べて「おおすみ」は8000トンと3分の1程度だ。ヘリコプターは離発着は可能だけど、格納庫がないんで、搭載して運用することはできない。「おおすみ」はどっちかっていうとエセックスとかのワスプ級強襲揚陸艦よりはイタリアのサンジヨルジノ級揚陸輸送艦(排水量7500トン)のほうに近いくらいだ。

でも「おおすみ」は1998年の竣工当時、海上自衛隊最大の輸送艦だったし、初めて全通甲板(艦首から艦尾までひとつながりの甲板)を持つ艦だったんで、それは画期的なものだった。

それまでの海上自衛隊の輸送艦は、艦首にドアがあつて、海岸に乗り上げて車両や兵員を直接陸地に上陸させる、いわゆるLST(戦車揚陸艦)型の艦ばかりだったのだ。だから「おおすみ」型については「近隣諸国に空母と誤解されるんじゃないの?」とか心配する声もあつたくらいだ。

「おおすみ」型3隻は、もちろん日本にどこかの国が侵攻したときに、反撃や反攻のための陸上自衛隊部隊を海から送りこむことを任務としている。飛行甲板下の車両格納庫には90式戦車なら10両を搭載することができただけのスペースがあり、兵員330名を搭乗させることもできる。艦内の医療設備も充実して、さらに甲板に陸上自衛隊の野戦病院施設を装備することもできる。

この能力は災害救援や外国への人道支援にも充分に役立つもので、実際2002年には「おおすみ」が東チモールに自衛隊のPKO部隊を輸送して、2004年のスマトラ沖地震の際には、3番艦の「くじら」



おおすみ型を作るならしもきたが断然お得

タミヤからは1/700のおおすみも発売されているが、しもきたのキットには艦載車両、ヘリ、ミサイル艇などが大量にセットされていてお得!(価格差は440円)また、しもきたはクリア成型甲板パーツが付属しているので、こまかく再現された格納庫内が見えるように製作することも可能だ







さき」が派遣された。

「おおすみ」型は直接陸地に着岸することはできないが、後部のウェルドックに注水して艦尾のドアを開けて、LCAC（エアクッション艇。普通「エルキヤック」と呼ぶ）2隻を発進させて、車両や人員、物資の陸地への輸送を行なう。LCACはつまりは揚陸用のホバークラフトで、アメリカ製。搭載能力は約60トンで、装輪装甲車なら4両、戦車なら1両、兵員180名を載せることができ、搭載重量が少ないときは70ノットで走る。

LCACはホバークラフトだから、従来の中型揚陸艇より格段に速いし、海岸が砂浜とかならばそのまま陸地まで進入して行くこともできる。搭載能力は揚陸艇より少なくとも、迅速で柔軟な揚陸が行なえる。まあ、その代わり価格も高いし、整備にも手間がかかる。LCACに乗せてもらったことはないけど、なんでも聞いた話じや、高速で航走するときは相当激しく揺れるそうだ。平底の揚陸艇の乗り心地も波が荒いとかかなりのもんだらうけどな。

海上自衛隊はLCACを6隻保有している、つまり「おおすみ」型3隻に2隻ずつのぎりぎりの数しかない。でもLCACは「おおすみ」型の付属物じゃなくて、ちゃんと一人前の「自衛艦」であるとされている。

「おおすみ」型は東日本大震災の救援活動でも、2番艦の「くにさき」が3月16日に石巻付近でLCACを使って食糧を輸送したり、「おおすみ」が3月19日に塩釜港に灯油を輸送したり、各地で被災者に入浴サービスを提供したり、その能力を発揮してくれている。こういう艦を作っておいてよかったね。



photo / 海上自衛隊

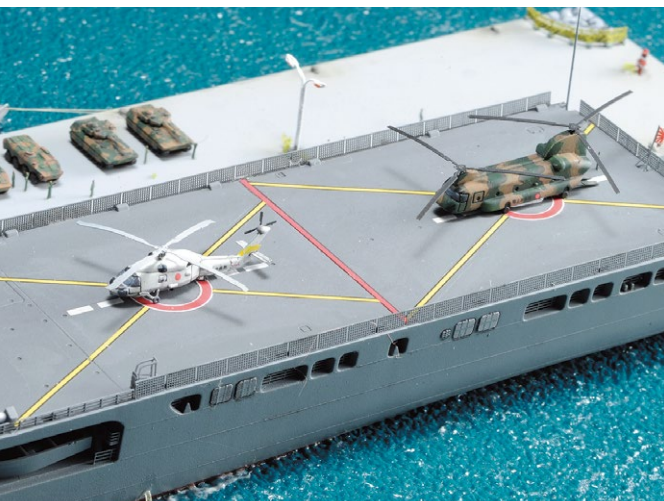
▲6号艇まで揃ったLCACは装輪艇から自衛艦に昇格。第1輸送隊第1エアクション艦隊として、おおすみ型とともに呉を母港とする

海上自衛隊輸送艦おおすみ型 LST-4002 しもきた





●埠頭の街灯には電球色の極小チップLEDを使うことで、しもきた艦内の灯りと色の差別化を図っているほか、ナトリウム灯のような埠頭らしい光が再現されている丸L/CAC後部の推進機は、エッチングパーツに差し替え、プラスチックパーツでは再現が難しい部分の精密感を高めている。筒状のパーツはステンレス製なので、ゴムマットの上に乗せ、ドリルの柄の部分を使って丸めるようにして製作した



●ダイオラマのベースはアクリル板から製作。アクリル板は、「はざいや」のカスミ 2mm厚。これにリキテックスのジェルメデュウムやモデリングペーストなどを使い分けて盛り付け、海面の波やLCAC、ミサイル艇より生じる航跡を再現している

●街灯は真ちゅう線を支柱にベースにLEDリード線で製作。金属同士なので非常にショートしやすいため、ショートを予防するためにリード線を瞬間接着剤でコーティング、絶縁処理を施して使用している

●UH-47やSH-60Jはそのまま組み立て塗装し、ローターブレードのみをエッチングパーツに差し替えている。戦車や装甲車、トラックなどの車両系も非常に出来がよいので、今回は塗装のみで仕上げています

●マスト上部のアンテナや艦橋付近のラッタルなどエッチングパーツにより効果的にディテールアップ

●使用エッチングパーツは、ビットロード PE-194 海上自衛隊 輸送艦 おおすみ型、ビットロード PE-106 海上自衛隊 輸送艦 おおすみ

タミヤが海自の輸送艦艇として唯一製品化しているのがおおすみ型で、しもきたはおおすみの同型艦です。今回はビットロードから発売されている専用エッチングパーツ「海上自衛隊輸送艦 おおすみ用」と「海上自衛隊輸送艦 おおすみ用」の2枚でディテールアップを施しつつ電飾しました。大量に付属している車両やヘリも製作してダイオラマ仕立てにしています。

上部飛行甲板と内部の車両甲板はクリアパーツで成型されていて、未塗装で取り付ければ完成後も内部を眺めることができます。今回は塗装と電飾を施すので、光の透けを防止するために下地にサーフェイサーを吹いてから銀で塗装、さらにその上に再度サーフェイサーを吹いて内部色の基本塗装を行なっています。ここで重要なのが銀塗装の上に直接基本塗装を行なうと、エナメル系塗料でのウェザリング時に、内部色はがれて台なしになるといことです。銀塗装のあとには必ずサーフェイサーをあいに重ねて内部色の塗装を行ないましょう。

艦内照明をLEDで再現するため、飛行甲板の裏(格納庫の天井)のどの位置に取り付けるかを吟味します。さらに、鉛筆などを使って目的の位置にLEDが取り付けられるか、配線できるかどうかを下書きしてチェックします。使用したのは0・8mm×1・6mmの極小LEDで、これを使って格納庫と艦橋内部を光らせました。配線を終えたら最後に必ずすべてのLEDが点灯することを確認。LEDにマスキングをして塗装します。這わせた配線と船体パーツが干渉する部分は、船体パーツ側の干渉する部分だけを削ってから塗装しました。

船体/艦艇底/甲板を接着し、各部のラインのデカール貼り。付属の甲板デカールは、貼りやすさを考慮してか大きめの余白があります。そのままいきなりマークセッターなどを使って貼らず、位置を決めて半乾きの状態のときに、新品のデザインナイフで余白を切り落とすようにしています。余白を切って取り除いてから、マークセッターを使いデカールを定着させるときに仕上がりします。



9784499234481

ISBN978-4-499-23448-1 C0076 ¥4500E

定価(本体4,500円+税)



1920076045004



海上自衛隊艦隻観覧式

Japan Maritime Self-Defense Force Plastic Model Fleet Review